

直方ミニバスケットボールクラブだより

「出会い」は偶然でも、「つながり」は互いの意志



9月29日（火）が、コーチの一人が直方クラブでの指導の最終日となります。10月1日から他県での就職が決まっています。4月当初からわかっていたことなので、前期の半年間のみということで指導に携わって来ていました。子どもたちと年齢が一番近いこと、直方クラブのOBであることから、子どもたちとの距離感も近く、子どもたちにとっては、いろいろなことを教えてもらいやすい関係でした。実際に体を動かして、プレーを見せながらアドバイスできるというのは何よりの強みです。口で言うより、実際に見せてくれると一目瞭然ですから…。高校を卒業してすぐでしたが、積極的に指導に加わって来ていましたし、何より子どものことをていねいにとらえ、指導スタッフと相談しながら適切に対応してくれたことは、活動の支えになりました。子どもたちにとっても心強いものだったと思います。

また、コーチ自身にとっても、わずか半年の経験でしたが、自分が子どものとき直方クラブで活動してきたことの意味をふりかえることができたでしょうし、それは、バスケットを「通して」何を学んだかということにつながったのではないかと思います。子どもの見方、「教える」ということの意味、小学生に教えるための方法、表現のしかた、子どもたちがスポーツ親しむということの意味など、多くのことを感じ、考えることができたのではないかと思います。そのことは、これから直接何かの役に立つことではないかもしれませんが、これから生きていくなかのどこかに活かされるものではないかと思います。

2020年は、すべての人が「新型コロナウイルス感染問題」に翻弄されてここまで過ごしてきていますし、これからも、まだしばらくは影響を受けながらの生活になると思われます。

「新型コロナウイルス」は、子どもの生活にも確実に影響を及ぼしてきました。長期休校に追い込まれるなか、卒業式や入学式、修学旅行や体育会など、重要な学校行事も軒並み中止になり、子どもたちから大切な思い出を奪い去ってしまいました。中学生や高校生、大学生においても、学校生活はもとより、高校・大学受験や就職試験、進学や採用、内定や採用取り消しなど、当事者にとっては本当に不安な日々をおくることを余儀なくされました。

その渦の中、成海も新たな地での社会人としてのスタートになります。先がみえにくい、先をよみにくい、混とんとする社会状況です。またこれまでになかったことが起きるかもしれません。将来のことを今語ることはできませんが、どんな状況にあっても、自分を失わないようにがんばってほしいと願っています。見失いそうになったときは、いったん歩みを止めて、歩むべき方向性を今一度見定めて、また歩み始めればよいと思います。

「出会い」は偶然かもしれませんが、「つながり」は互いの意志です。いったん直方クラブで出会うことができ、卒業後もこうしてつながり続けることができていることを幸せに思います。

私が、39年前からミニバスケットクラブの指導に携わるようになり、ずっと大切に続けてきたのは、「地域に根ざしたクラブ活動」です。それは、「つながり」を育むことにほかなりません。子どもたちと、保護者のみなさんと、子どもの活動を支えてくださる地域のみなさんと...

私自身、若いときから今に至るまで、幾多の失敗も重ねながら今日に至っていますが、子どもたちが多くのことを教えてくれましたし、保護者や地域にみなさんに支えられてきました。今、毎日いっしょに活動している子どもたち、活動を見守り、支え続けていただいている保護者のみなさん...、そして昨年度までのたくさんの出会い...、その延長線上にいる、現在のコーチングスタッフ。私が何を大切にしてきたか、何をまちがってきたか、何を喜びとしてきたか、何を悩み苦しんできたかを感じてくれていて、そのなかで自分が何を学んできたか、何をどう感じてきたか、自分と向き合ってくれていて...。そのうえで、今、子どもたち（後輩たち）にかかわってくれていて...

小学生が活動するのに広すぎないスケールで、大きくし過ぎないスケールで、一人ひとりとのつながりを子どももおとなも大切にしながら地道に続けることで、直方という小さなまちで、世代間の循環という大きなつながりが育まれています。三世代にわたってかかわり応援し続けていただいている方もおられ、本当にうれしい限りです。

10月から福岡、直方の地を離れますが、「出会えたこと」「つながる時間を共有できたこと」は消えないでしょう。里帰りした時には、また寄ってくださることと思います。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
ありがとう。元気で！

